

こんしゅう ます ひとびと さいわ  
今週のこたば「貧しい人々は幸い、」

せいし ふくいんし  
《聖書》ルカによる福音書 6:17, 20-26

しゅく ふく  
祝福とのろい

こたば なか しゅくふく こたば  
イエスの言葉の中には、祝福の言葉と  
どうじ こたば  
同時にのろい言葉があります。これを  
きも う  
どのような気持ちで受けとめていけばよ  
いのでしょうか。せいし よ ひと  
聖書をよく読む人でも、  
しゅくふく こたば よ じぶん  
祝福の言葉だけを読んでしまい、自分に  
こたば かた かんが  
はのろい言葉が語られていないと考え  
てしまいます。

こたば なか  
しかし、もしイエスの言葉の中からの  
こたば と さ  
ろい言葉を取り去ってしまったとした  
げん  
らどうなるでしょうか。そうすると、現  
じゅう こうてい はつげん  
状を肯定したような発言になってしまい  
ひんぶ さ  
ます。貧富の差があってもそのままにし  
ます。じゅうたい くる じゅうたい  
ておいて、貧しい状態や苦しい状態にあ  
ひとびと ひ いま くる  
る人々に向かって、今は苦しくてもがま  
むく  
んしていなさい、きっといつか報われる  
とき く い  
時が来るからと言ってなぐさめているに  
すぎなくなります。もし、イエスがただ  
い けつ  
これだけのことを言ったのなら、決して  
じゅうじか か ころ  
十字架に掛けられて殺されなかったでし  
よう。

こたば かた  
イエスがのろい言葉を語るからこそ

しゅくふく こたば い とうじ  
祝福の言葉が生きてくるのです。当時の  
しゃかい なか ち い ひとびと かねも  
社会の中で地位のある人々や、金持ちや、  
ちから ひとびと ひ なん  
力のある人々を非難したからこそ、たく  
くる ひとびと  
さんの苦しんでいる人々がイエスについ  
ひんぶ さ ばげ じゅうたい  
て来たのです。貧富の差が激しい状態を  
ふ まん だれ けつ くら だ  
不満に思っている、誰も決して口に出  
い  
しては言わなかったのです。

まず ひとびと くる ひとびと  
貧しい人々や苦しんでいる人々がいる  
とき こま たす  
時に、ただ困っているから助けてあげま  
た め  
しょうというだけでは足りません。目の  
まえ こま ひとびと たす ひつよう  
前で困っている人々を助けることも必要  
ひとびと くる じゅうたい げんいん さが  
ですが、人々の苦しい状態の原因を捜し、  
と のぞ きょうりやく  
それを取り除くためにも協力しなければ  
なりません。

まず ひと びと さいわ  
貧しい人々は幸い、

まず ひとびと さいわ ぎやくせつてき  
「貧しい人々は幸い」という逆説的な  
こたば おな い み りかい ひつよう  
言葉も、同じような意味で理解する必要  
げんじゅう こうてい こたば  
があります。現状を肯定する言葉として  
う と  
受け取ってはいけません。

ふくいんしゅう ころ  
マタイによる福音書(5:3)では「心の  
まず ひとびと さいわ  
貧しい人々は幸い」となっています。イ  
げんじつ もんだい はつげん こたば  
エスが現実の問題として発言した言葉を、  
せいしんてき い み お か  
精神的な意味に置き換えてしまったので  
す。